

2025 年度 前期

個別学力検査

国語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は 23 ページあります。解答冊子には解答用紙 5 枚が綴じられています。
3. 試験時間は 90 分間です。
4. すべての解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください(氏名は記入しないでください)。
5. 問題冊子と解答冊子に印刷不鮮明や落丁などがある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
6. 試験中に気分が悪くなったときは、手を挙げて監督者の指示に従ってください。
7. 問題冊子は試験終了後に持ち帰ってください。ただし、無断で複写、複製、転載などを行うことはできません。

個別学力検査

国

語

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

国語の解答はすべて解答用紙に書くこと。

第一節

心理学者のトッド・ローズとオギ・オーガスは、通常想定される成功のレール、^ア定石的なキャリア、大半の人が信じる道を外れ、回り道や型破りに見えるような独特な道行きを選んできた人に関する研究をしています。その名も、ダークホース・プロジェクト。外れ者の研究プロジェクトに、ふさわしい名前ですね。

「天文学者として成功するには、博士課程の学位を取得し、名のある大学で博士課程修了後の研究期間を終え、終身制の教授職に落ち着くというのがふつうである。オーダーメイドのテラーとして成功するには、若いうちからファクションへの情熱を抱き、そのままコツコツと着実に腕を磨き、ひとりの師匠の下で何年も修業を積むというのが決まりのルートだ」。しかし、ローズとオーガスが取り上げたのは、一五歳で高校を中退したニュージールランドのシングルマザーのジェニー・マコーミックや、大学の学費のために始めたバーテンから多数事業を展開する事業家となり、大学を辞したアラン・ルーローのような、人生のレールを外れた人物です。

ジェニー・マコーミックは、高卒認定試験にも落第したほどだった。けれども、二〇代の半ばにカルデラ盆地で夜空を見つめ、そのありように圧倒されて以来、プラネタリウムで講師を捕まえて助言や支援をもらいながら天文学を学ぶようになり、自宅に高度な技術を使った天文台をつくるまでになった。そしてついにマコーミックは、アマチュアのア文家として新惑星を発見した。一七八一年以来の快挙だった。

アラン・ルーローは、大学を辞してまで取り組んだ事業がジュンプウマンパンなタイミングで人生に漠然とした不満を抱いていることを自覚し、すべての会社を売り払ってボストンに移住した。経営は好調だったので、「^イ狂気の沙汰とは言われないまでも、リスクが高いと思われるのはもったもなこと」だった。ルーローは、何がやりたいことなのかもわからないまま過ごしてい

たボストンで、いくつもの偶然が積み重なった結果、仕立て屋をオープンして発注を取ってしまう。小売りや服飾にそれまで関心がなかった上に、サイボウはもちろんものづくりの経験や技術がなかったにもかかわらず。しかし、彼は初めてスーツを作った二年後にナショナル・ファッション・アワードの受賞者の一人に選ばれた。

ちよつと戸惑わせるほど定石を外れた事例を二つ並べましたが、他人が作った言葉や他人が決めた選択肢にとらわれず、自分の衝動に気づき育てていくプロセスについて考える上で、^(A)ダークホース・プロジェクトは確かに参考になりそうです。

第二節

ローズとオーガスは、ダークホース・プロジェクトの成果を踏まえて、自分の“micromotives”にフォーカスを絞ることが大切だと指摘しています。書籍では「小さなモチベーション」と訳されているのですが、これまでの言葉遣いとの間で混乱をきたさないように、本書では「偏愛」と訳しておきます。偏愛こそが、衝動(深い欲望)へとつながっていくのです。

そもそも、「やる気」「意欲」「競争心」「モチベーション」などといった言葉を聞くと、どうにも抽象的なものを思い浮かべてしまいます。やる気ゲージみたいなものがあって、それが低いと仕事が手につかないし、家事や恋愛も面倒だ、みたいなイメージ。こういう欲望の捉え方は、やる気ゲージが今どれくらいかを問題にしているだけです。これは、刺激の強弱だけに注目している「強い欲望」の発想です。

「身体を動かすことと、美術館行くことが好き」というように、なだらかに好きなものを並べる語りは珍しくありませんが、こういう言葉にも同じ考えが隠れています。性質が違うかもしれない二つの「好き」が並列されていますよね。その人の意欲が向いている対象だけが話題になっていて、それらの好きに質的な違いがないという発想です。しかし「偏愛」の視点は、「好き」の細かなコンテキストの違い、質的な違いに注意を向けます。

甲

ローズとオーガスは、こうした抽象的で一元的な意欲や選好の捉え方を批判し、強さとは違う水準で欲望について考えています。二人が価値を置こうとしているのは、他人に移し替えられないほど「個人的」であり、文脈や対象を変えたと成立しないくらい「細分化された」欲望です。そういう個人的で細かい欲望だからこそ、「偏愛」と呼ばれているわけですね。

欲望の「深さ」とは、その実、欲望の「個人性」や「細かさ」のことだと言ってもいいくらいです。偏愛は、「料理が好き」「野球が好き」などといった雑な一般論よりもはるかに細かく特定化されたものへと向かっているのです。

ローズとオーガスが偏愛の例として挙げているのも、〈クローゼットや引き出しの中を整理する〉〈道具を使い分けて木材のあらゆる凹凸がなくなるくらい完全な球へと磨き上げる〉〈様々な野鳥を見分ける〉などといった具体的に特定の好みに根ざしています。^(B)欲望や意欲を抽象的なエネルギーとみなすのではなく、特定の偏った仕方でしたか発現を許さない「偏愛」として捉えるようにと二人は考えているわけです。

第三節

ローズとオーガスが挙げている偏愛の事例を見てみましょう。例えば、生物を見分けて分類するのが好きだと考え、当初は、生物学の研究者になろうと考えていたアルバロ・ジャマリロという人物。

彼は大学院の指導教員から助言を受け、ハキリアリを研究対象にしていたのですが、研究のためのフィールドワークで南米に行った折、実際にはアリよりも鳥に目を奪われていたことに気づくことになります。彼は「同じ生物でもよく移動し、色彩豊かで、見つけにくいものに惹かれ」ていたのです。

自分の特殊な好みを読み解くことで、色彩豊かな動く鳥たちを追いかけることに楽しみを感じている自分を自覚したジャマリロは、大学院を辞して野鳥観察をベースにした生活へと移行する決断をします。顧客と鳥について語り合いながら、野鳥を観察するツアーを提供するアルバロズ・アドベンチャーズ社を設立したのです。

ジャマリロは、ハキリアリを見るべきなのに、目が野鳥を追いかけてしまうという偏愛の経験を適切に解釈していく中で、自分の抱えている衝動を認識しました。色彩豊かな野鳥を実際の生息地で見つけて観察し、それについて語り合うことを楽しみたいという衝動です。特定化された個人的な好み（＝偏愛）を適切に読み解いた結果、生物学者になるという道をアキラめ、これまで予想もしない、しかし自分に一層フィットしたキャリアを選べるようになったわけです。

(C) 以上から、偏愛と衝動のどんな関係が見えてくるでしょうか。これまでの衝動の知見と組み合わせれば、見えにくい衝動と具体的な偏愛はどこかで通底している、ということまでは明言できます。このことを踏まえ、「偏愛は、衝動が具体的な活動の形をとったときの意欲につけられた名前だ」と規定することにしましょう。

そうすると、衝動は、偏愛を丁寧な解釈することで把握できることになります。つまり、特殊で細かな個人的欲望である「偏愛」をほどほどに一般化すれば、自分の「衝動」がどんなものなのかを言い当てることができるわけです。^(D)衝動とは、解きほぐされた偏愛にほかなりません。

ただし、衝動が必ず偏愛の形をとれるとは限りません。衝動が抑圧されて、具体的な活動の形へと変換されないままになり、フラストレーションにつながってしまう事態を容易に想像することができるようです。衝動の捉えがたさは、それが直接把握できるものでなく、適切な解釈によつてしか捉えられないところ、そして、具体的な形をとらずにモヤモヤした状態のままにいるかもしれないというところにも要因があるのでしょう。

いずれにせよ、衝動と偏愛は次のような関係にあるということを定義的に持つておきましょう。「衝動を知るには、偏愛している具体的な活動を解釈し、適切に一般化された形でパラフレーズすればよい」。

第四節

自分がどんな衝動を抱えているかを知るための入口は、個人的で細分化された偏愛にあるという話をしてきましたが、一足飛びだったので丁寧に説明を積み上げ直しましょう。衝動は、普通に生活していてごろごろ見かけるようなものではありません。^(E)ユウレイと同じように捉えどころがなく、気づくことさえ難しい。

偏愛は、具体的な活動を出口として見つけた衝動のことです。しかし、衝動は出口を見つけれないこともあるし、複数の適応先を見つけることもありえます(この点は後述)。「偏愛」という言葉を、個人の具体的な「好き」を指すためにとつておく代わりに、「衝動」という言葉を、色々な適応先を見つめる前の潜在的な状態を指すために使うというイメージです。「偏愛が衝動の一

表現であり、衝動は一般化された偏愛である」などと言えるのは、両者がこういう関係にあるからです。

偏愛する活動、例えば「野鳥観察」に取り組むとき、その人は一体何を楽しんでいるのでしょうか。野鳥観察において何に享樂を感じているかは、人によって相当違はずです。例えば、ローズとオーガスの本では、「野鳥観察」という a 同じ楽しみを持つているように思える二人の人物——その二人のうちの一人は、先に見たアルバロ・ジャマリロです——が、実際には、全く違うものを楽しんでいるという事例が紹介されています。

テッド・フロイドは、アメリカ野鳥観察協会の機関誌で編集長を務めていたほどの野鳥愛好家です。ただし、鳥の生態を「眼」で楽しんでいたジャマリロと違って、フロイドの楽しみは、「耳」で野鳥を識別し、味わうことにありました。

しかも、鳥のさえずりを聴き分けることに楽しみを感じているといっても、フロイドはちょっとした異能の持ち主でした。彼は、鳥の鳴き声を音波受信装置で記録したときと b な波形を、耳で聴いて再現できるそうです。すごすぎますよね。

フロイドの野鳥観察は、動きや色彩を楽しむジャマリロの楽しみ方とはまるで違っています。つまり、同じ野鳥観察の愛好家でも全く異なる「偏愛」を抱いているのです。一見似たものに惹かれていたとしても、^(E) 実際には根本的に異なる偏愛を生きている可能性もある。だから、単に自分の特殊な好みに気づくだけでは足りません。

何かを言語化するとは「細かく」「詳しく」語ることです。「鳥が好き」「野鳥観察が好き」「鳥を識別するのが好き」といった理解は、まだまだ解像度が低い。もっと細かく、詳しく語らねばなりません。そうでなければ、偏愛の延長に想定される衝動の姿を垣間見ることもできません。^(ウ)

第五節

^(F) 偏愛や衝動を掘り下げる上で、SNSの使用には注意すべきだという点も注意をウナガさせてください。私たちは普段から自分の好みや行動を不特定多数の人々にシェアしていますが、そこで話題になるのは、基本的に、ちょっとした意外性を持ちつつ

も、共感可能で理解しやすい事柄です。その中には、アンイなラベリング、決めつけ、勝手な判断も含まれています。世間ウケるかどうかで偏愛の語り方を決めていては、偏愛をちゃんと掘り下げることができません。

もちろん、ネット上でトツピな語りが注目を浴びることはよくありますし、バズったSNS投稿の中には偏愛と言ってよさそうなものもあります。だったら、偏愛をSNSにシェアしたって構わないんじゃないかと思ってしまうそうです。

仮にそうだとしても、偏愛に関する投稿でバズっているのは、面白おかしく書かれていて、いかにも世間ウケする偏愛に限られています。共感を呼ばない偏愛もたくさんあるでしょう。それにもかかわらず、「SNS投稿ありき」で偏愛を掘り下げてしまつては、自分の欲望をタイムラインに合わせて編集することになりかねません。他人に気に入られるように偏愛を解釈する必要はどこにもないはずです。

偏愛のような特定化された欲望は、大抵、不特定多数の他人にシェアして共感を c 類のものではないでしょう。

偏愛が見つかるのは、思わずやってしまったり、そうするつもりでなかったのにいつのまにか習慣になっていたりするような些細な日常の行動の中であつて、それは、およそバズとも共感とも無関係。だとすれば、原則としてそう考えた方が偏愛の言語化にとつてはよいと言えます。

偏愛はあまりに個人的なので、簡単には他人の興味を誘えるものではない。だから、衝動を解きほぐすには、他の人に共有しづらく、バズらないところに注目することが避けられない。それなのに、SNSは逆方向へ私たちを導こうとしているのです。

第六節

偏愛を掘り下げる上で大切なのは、「小説が好き」「洋楽が好き」「料理が好き」「走るのが好き」くらいのよく使う雑な一般論を避けながら、もっと解像度高く偏愛の性質を理解することです。

具体的には、偏愛している活動に携わっているとき、実際のところ、自分は何を楽しんでいるのかを言語化する必要があります。森の中でちらちらと見える鳥の羽ばたきから鳥の種類や様子を察し、生態について理解を深めることと、鳥の鳴き声によつ

て鳥の置かれている状況や発声の意図を知ることが全く違う活動であるように、低い解像度での偏愛理解は、誤解につながるからです。

そうしたことに気をつけながら、何とか d 偏愛を細かく詳しく語ることができたら、その先には「解釈」という作業が待っています。「解釈」は、言語化した内容をほどほどに一般化し、衝動を言い当てることを指します。

偏愛の解釈について、私の子ども時代を例に説明してみましょう。コカコーラのおまけでついてきたゲーム「ファイナルファンタジーⅨ」のフィギュアや、他のコンテンツのグッズ、そして、城のレゴブロックを使って、自分の中だけのストーリーを作り出すことに、かつての私は夢中になっていました。これが、私の抱えていた偏愛の一つです。

この遊びにおいて、あるキャラクターが許容しそうな行動かどうかという制約は意識していますが、元のストーリーや世界観は重要ではありませんでした。私が惹かれていたのは、キャラクターとその組み合わせが提案してくる複数の行動可能性と、その都度用意したストーリーの初期設定を e に掛け合わせながら、整合的な時間の流れを作って何らかの終点へと向かおうと努めることです。

要するに、〈異なる分野の題材を組み合わせ、⁽¹⁾ 破綻しない形で予期せぬ結末を作ろうとするストーリーテリング〉への衝動を、私は持っていました。ストーリーテリングによって、思いもしない途中経過やエンディングを経験することができることの楽しさに夢中になっていたわけです。ここまで抽象化すればわかると思うのですが、これは現在の私が執筆や研究を通して得ている楽しさと本質的には同じものです。

もちろん、研究と物語には無視できない違いもありますが、「今の状態から破綻なく一定の方向へと議論を着実に進めていき、何らかのオチへと落とし込む」という点では違いがありません。しかも、自分でもわからないから知りたくて研究・執筆しているわけで、書くことには「予期せぬ」内容が含まれています。私はキャリアのどこかのタイミングで、この衝動を、元々の二次創作的なストーリー作り」の形で維持することを止め、研究という別の文脈に移し替えたのでしょうか。

ともあれ、ここで確認しておきたいのは、それほど重要な衝動が、おまけグッズとレゴブロックによる物語遊びへの偏愛の中

に隠れており、しかもこのことは、「ファイナルファンタジーが好き」「レゴブロックが好き」「ごっこ遊びが好き」「一人遊びが好き」などという雑な一般論からは見えてこないという事実です。逆に言えば、⁽¹⁾衝動は、偏愛について十分言語化した上で、それをあれこれ解釈することではじめて見えてくるのです。

第七節

これまでの議論から読み取れることがあります。衝動は、たった一つの偏愛をもたらすと考えるべきではないということです。一つの衝動が色々な姿をとる可能性がある。物語を作ることでもできれば、論文を書くこともできるというように、自分を突き動かす衝動が尊重される状況設定さえあれば、私たちは様々な環境で衝動の力を解放することが出来るわけですね。

このことを、ローズとオーガスはハヤブサにぴったりの生息地が多様であることに喩えています。彼らによると、ハヤブサは「カリフォルニアの海辺の崖、中央アジアのヒンドウークシユ山脈、オーストラリアのサザン・テーブルランド」、そして「高層ビルが立ち並ぶ」マンハッタン島などに生息しています。ハヤブサが都会ニューヨークを好んで暮らすのは意外な話に聞こえますが、マンハッタンは、無数の⁽²⁾獲物^オがいるだけでなく目立つた天敵もないため生息地としてぴったりだそうです。

⁽²⁾ハヤブサにとつてのマンハッタンのような場所を、それぞれの衝動に従って見つけられないでしょうか。自分に合った意外な場所に気づくことができれば、もつと驚きと充実感に満ちた生活が送れるはず。しかし、一人一人の偏愛を細かく観察し、解釈することでは、自分のマンハッタン探しはできません。

自分の特性を踏まえた行動をとろうとすると、その行動は自然にたった一つに定まるという考えは単純すぎます。ハヤブサが海辺の崖や山脈に住まうことも、大都市に住まうこともできるように、衝動は、複数の適応先を潜在的に持っているものです。それに気づくことができるかはさておき。そして、そういう複数の選択肢や、また別の可能性に気づけるように、偏愛をそのままにせず、いくらか抽象化する（＝解釈する）ことが大切だと論じてきたのです。

要するに、ある衝動は、求めている楽しさが損なわれない限りで意外なほど多様な仕方で横展開することが可能です。「二次

創作的な物語制作」を偏愛しているからといって、物語制作者になる必要はないように、ちゃんと偏愛を解釈することができる。自分がフィットする場所を色々なジャンルや対象に見つけることができる。

最後に言うまでもないことを少々。ダークホース・プロジェクトは、基本的に偏愛を職業にした人を取り上げています。しかし、衝動や偏愛について、職業をベースに考える理由は特にありません。「やりたいこと」と聞いて、すぐに仕事をイメージするのは現代人の^(ク)アクヘキと言うべきでしょう。

YouTubeのテレビCM(二〇一四)で採用されたタグライン「好きなことで、生きていく」ではないですが、自分の「好き」を素直に仕事にするべきだという考えは私たちにキョウコ^(ケ)なものとして存在しています。就活にいそしむ学生たちは「やりたいこと」「自己理解」「適職」「自分に向いているかどうか」について、調子を崩すほど悩んでいるくらいです。

しかし、「好き」は生活の一部であれば十分でしょう。空揚げ配り、延々と歩くこと、天体観測、他愛ない魔法の収集、鳥の羽ばたきを眺めること、ストーリー構成への情熱のことを思い出してください。これらの偏愛は、必ずしも職業的な着地を必要としていませんでした。趣味やプライベート、あるいはその他のやり方で、偏愛を行動に結びつけたって構わないはずです。

第八節

これまでわかったことを整理しておきましょう。哲学者のトリスタン・ガルシアが、強さや激しさを追い求めるのが近代的思考の特徴だと指摘したように、私たちは、欲望の「深さ」ではなく、欲望に伴う感情の「強さ」にばかり目を奪われています。

欲望を抽象化して質のことを考えないからこそ、「強さ」に人々の目は集中します。欲望に伴う感情的な刺激の強弱だけを問題にしている。こうした「普遍的で漠然とした動機」の考え方は、「競争心」や「創造性の追求」のような言葉と結びついて、世間的にありがたがられています。こうした一元的な欲望の捉え方を洗練させるために、「モチベーション」という言葉遣いが発達してきました。

しかし、こうした「強い欲望」系列の見方では衝動に迫ることはできません。そこで注目したのが、欲望の「深さ」です。「深い

欲望」は、感情的な刺激を伴わない地味な欲求であり、他人指向型ではなくものすごく個人的な欲求であり、従って表立って見えづらい欲求であるという性質を持っています。要するに、強さの軸で語られるモチベーションが公共的で抽象的であるのに対して、深さの軸で語られる衝動は、個人的で細かく特定化されています。

本書では、個人的で特定化された具体的な欲望のことを「偏愛」と呼んでいます。往々にして人生の「正しい」ルールを外れて楽しく暮らしている人が身に着けているように思われる、「きめ細かく特定された、自分自身の（いわば偏った）好みや興味」のことです。偏愛は他人と共有できないかもしれないし、合理性もないかもしれない。

こうした偏愛の延長に衝動があります。^③偏愛は、衝動が具体的な行動としての出口を見つけたときに用いられる言葉です。だからこそ、偏愛をほどほどに一般化すれば、衝動を言い当てることができます。衝動は、解きほぐされた偏愛のことです。

これが、本章の冒頭で掲げた「衝動とは結局何ものなのか」という問いへの答えです。衝動について知りたければ、欲望の強さに惑わされず、自分の細分化された個人的な欲望、つまり偏愛について掘り下げ、それを抽象度を上げてパラフレーズしていきましょう。

野鳥観察が楽しいからといって、野鳥観察の雑誌出版社や関連協会に勤めることが自分にとっての正解だと言えるでしょうか。山岳ガイドになったり、鳥類学者になったりすることがベストでしょうか。どれがその人にとって一番いいのかということ、誰にも断言できません。もしかすると、趣味として楽しむ以外には野鳥業界には居場所がないことがわかるかもしれないし、これらすべてに適性があるとわかるかもしれない。野鳥観察への異常な情熱があったとしても、それだけでどうこう言えない。

自分がフィットする場所はそう簡単に見つからないはずです。神のような視点に立って、自分の衝動がどこに向かおうとしているのかを足早に断定することは誰にもできません。上司や教師にも、家族にも、自分自身にもできないことです。結局のところ私たちは、時間をかけて色々やってみながら、「これかも」「いや、こっちな」という地道なシコウサクゴ^(ニ)を通して、自分の衝動がどんなものなのかを調べ、観察してみなければならぬのです。

（谷川嘉浩『人生のルールを外れる衝動のみつけかた』 問題作成にあたり表記の一部を改めた。）

問題Ⅰ

次の問いに答えなさい。

問一 傍線部(ア)～(オ)の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

(ア) 定石

(イ) 沙汰

(ウ) 垣間見る

(エ) 破綻

(オ) 獲物

問二 傍線部(あ)～(こ)のカタカナを漢字で書きなさい。

(あ) ジュンプウマンパン

(い) サイホウ

(う) アキラめ

(え) ユウレイ

(お) ウナガサせ

(か) アンイ

(き) トツピ

(く) アクヘキ

(け) キョウウコ

(こ) シコウサクゴ

問三

空欄

a

ゝ

e

欄の記号を○で囲みなさい。

に入る最も適当なものを、それぞれの選択肢(1)ゝ(5)から一つずつ選び、解答

a	(1) 眺望すると (4) 傍観すると	(2) 熟考すると (5) 一見すると	(3) 回顧すると
b	(1) 遠隔的 (4) 教示的	(2) 同時的 (5) 相互的	(3) 相似的
c	(1) 誘える (4) 添える	(2) 携える (5) 奪える	(3) 称える
d	(1) 効率よく (4) 首尾よく	(2) 気前よく (5) 潔ぎよく	(3) 運氣よく
e	(1) 物理的 (4) 慣性的	(2) 即興的 (5) 根本的	(3) 対自的

問題Ⅱ

次の問いに答えなさい。

問一 波線部(A)「ダークホース・プロジェクトは確かに参考になりそうです」とある。それはなぜか。その説明として最も

適当なものを、次の(1)～(5)から一つ選び、解答欄の記号を○で囲みなさい。

- (1) 大半の人が信じる道を外れ、独特な道を選んできた人に関する研究からは、他人の言葉や他人が決めた選択肢を頑なに受け入れず、自分の衝動に気づき育てる上で重要となる姿勢を学べるため。
- (2) カルデラ盆地で見た夜空に圧倒されるなど感動的な体験がどのように起こるかを研究することは、他人が作った言葉や他人が決めた選択肢にとらわれず、自分の衝動に気づき育てていくプロセスを考える上で役立つため。
- (3) 何がやりたいのかもわからないまま過ごしていた人が、いくつもの偶然が積み重なり仕立て屋になるといった、起業する上での心得を知ることが、自分の衝動に気づき育てていく過程を考える上で有用なため。
- (4) 回り道や型破りに見えるような独特な道行きを選んできた人の人生についての研究は、他人が作った言葉や他人が決めた選択肢に振り回されずに、自分の衝動に気づき育てていくための重要な示唆を与えてくれるため。
- (5) ときに人を戸惑わせるほどに通常想定される成功のレールから外れた成功者の事例がどのように起こるか研究することは、他人が作った言葉や他人が決めた選択肢にとらわれない勇気を与えてくれるため。

問二 空欄

甲

に入る文として最も適当なものを、次の(1)～(5)から一つ選び、解答欄の記号を○で囲みなさい。

- (1) 偏愛は、意欲を向けている対象に深く注意を払うことが重要なのです
- (2) 偏愛は、フラットに並べて語ることができるものではないのです
- (3) 偏愛は、様々な性質を一連の考えのもとで捉えてこそ、語ることができるのです
- (4) 性質が違う「好き」を並べることで、偏愛を語ることができるのです
- (5) 偏愛は、刺激の強弱に注目する強い欲望の発想に基づいているのです

問三 波線部B「欲望や意欲を抽象的なエネルギーとみなす」とある。それはどういうことか。その説明として最も適当な

ものを、次の(1)～(5)から一つ選び、解答欄の記号を○で囲みなさい。

- (1) 「好き」を、強弱はあるが質的な違いはないと考える。
- (2) 偏愛を、衝動が具体的な活動の形をとったときの意欲と考える。
- (3) 「好き」を、衝動が一般化された偏愛と考える。
- (4) 「好き」を、個人的で細かく特定化されたものと考ええる。
- (5) 偏愛を、自分の特殊な好みを読み解くことで自覚するものと考ええる。

問四 波線部(C)「以上から、偏愛と衝動のどんな関係が見えてくるでしょうか。」とある。ここでの「関係」とはどのようなものか。その説明として最も適当でないものを、次の(1)～(5)から一つ選び、解答欄の記号を○で囲みなさい。

- (1) 偏愛は、衝動が具体的な活動の形をとったときの意欲に名付けられるものであるということ。
- (2) 特殊で細かな個人的欲望である偏愛を一般化することで、自分の衝動を言い当てることができるということ。
- (3) 衝動は偏愛を丁寧に解釈することで把握できるということ。
- (4) 自分がどんな衝動を抱えているかを知るための入口が、個人的で細分化された偏愛であるということ。
- (5) 様々な形の多くの偏愛が相互に影響を与えることによって衝動が生まれるということ。

問五 波線部(D)「衝動とは、解きほぐされた偏愛にはかなりません。」とある。それはどういうことか。その説明として最

も適当なものを、次の(1)～(5)から一つ選び、解答欄の記号を○で囲みなさい。

- (1) 偏愛を、より個人的に深く検討していくことで、衝動よりも感性を重視したということ。
- (2) 自分の特殊な好みを読み解き、自覚することで、偏愛の経験を直感的に解釈できるようになったということ。
- (3) 偏愛を絶えず追求することで、これまで予想もしなかったキャリアを選択できたということ。
- (4) 特殊で細かな個人的欲望である偏愛の経験を読み解くことで、直接には捉え難い衝動が見えてきたということ。
- (5) 偏愛を一般化せず普遍化することで、自身の衝動の形が見えてきたということ。

問六 波線部E「実際には根本的に異なる偏愛を生きている」とある。このことから何が言えるか。その説明として、最も

適当でないものを、次の(1)～(5)から一つ選び、解答欄の記号を○で囲みなさい。

- (1) 「○○が好き」というよく使う雑な一般論は、同じ楽しみでも違う性質を持つかもしれない偏愛に対する理解を妨げる。
- (2) 同じような偏愛と理解できるように見えたとしても、言語化の解像度が低いと掘り下げ方が足りず、偏愛を理解できない。
- (3) 同じ「野鳥観察」に取り組んで、それを楽しんでいたとしても、楽しむ際の方法や対象は人によってまったく違う。
- (4) 同じものに対する「愛好家」を、「好き」という程度の言語化で観察すると、個人が持つ偏愛の違いがわからなくなる。
- (5) 一見似たものに惹かれていても、個人はそれぞれ異なる職業や人生の背景を持つので、実際には偏愛の性質は異なる。

問七 波線部(F)「偏愛や衝動を掘り下げる上で、SNSの使用には注意すべきだ」とある。それはなぜか。その説明として

最も適当でないものを、次の(1)～(5)から一つ選び、解答欄の記号を○で囲みなさい。

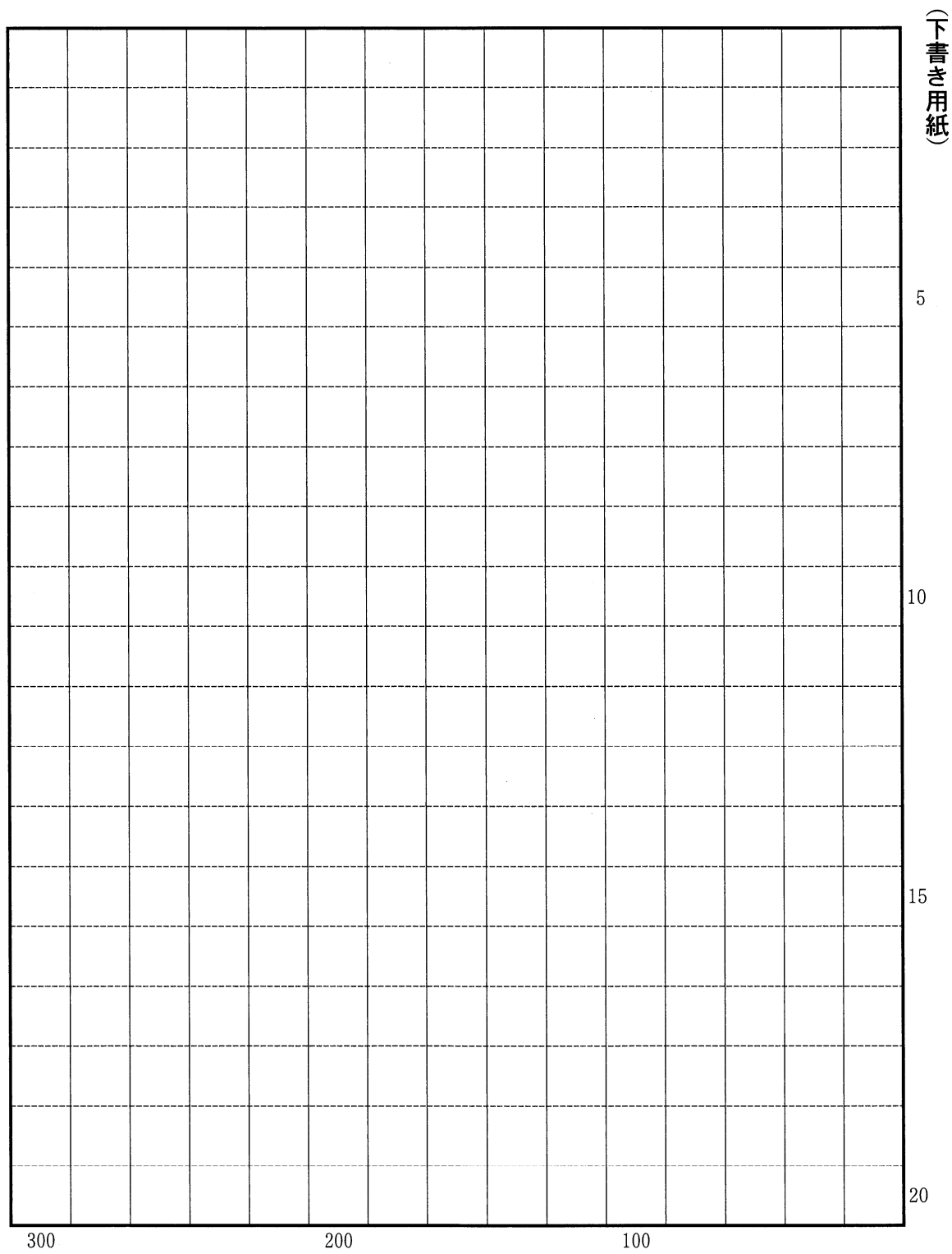
- (1) 偏愛は特定化された欲望であり、共感可能で理解しやすい事柄が話題になることが多いSNSとは相性が悪いから。
- (2) SNSは情報を不特定多数の他人にシェアしており、特定化された欲望である偏愛について投稿すると、自分の習慣など個人的なことが他人に知られる危険があるため。
- (3) SNSに投稿することを前提で偏愛を掘り下げると、本来は個人的欲望であるはずの自分の偏愛を、他人に気に入られるよう解釈することになってしまいかねないから。
- (4) 偏愛は多くの場合、不特定多数の他人にシェアして気に入られようとするものではないが、SNSではそれを重視しており、偏愛を見つけることを妨げてしまいがちなため。
- (5) 偏愛は個人的欲望であり簡単には他人の興味を誘えないにも関わらず、SNSは他人からの共感やバズることを重視する方向へ私たちを導くから。

問八 二重傍線部①「衝動は、偏愛について十分言語化した上で、それをあれこれ解釈することではじめて見えてくるのです」とある。それはどういうことか。一二〇字以内で説明しなさい。なお、句読点やかぎ括弧などの符号も一文字として扱うこと。

問九 二重傍線部②「ハヤブサにとつてのマンハッタンのような場所を、それぞれの衝動に従つて見つけれないでしようか。」とある。それはどういうことか。ここでいう「場所」が比喩的に示している内容を明確にして、筆者の主張を一二〇字以内で説明しなさい。なお、句読点やかぎ括弧などの符号も一文字として扱うこと。

問題Ⅲ

二重傍線部③「偏愛は、衝動が具体的な行動としての出口を見つけたときに用いられる言葉です。」とある。ここに示されている「出口を見つける」という内容を明確にして、「衝動」についての筆者の考えを三〇〇字以内でまとめなさい。なお、句読点やかぎ括弧などの符号も一文字として扱うこと。



(下書き用紙)

5

10

15

20

300

200

100